

## 「2024年中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学教育学部1年 坪内 萌絵

## ① 学習成果

今回のプログラムは私に多くの変化をもたらしたが、その中でも最も大きな変化は語学学習への意欲が高まったことである。参加当初、私は「一度は海外に行ってみたい」という思いだけでこのプログラムに参加した。また、第二外国語は中国語ではないため、中国語の学習は今回限りだと考えていた。しかし、このプログラム中に会った中国人との交流の中で、自分の思いを伝えたくても中国語が話せないために断念せざるを得ない場面が数多くあった。中国語で日常会話ができる他の参加者に頼りっぱなしで、自分一人では何もできなかったことに対して、「もっと事前に勉強しておけばよかった」と後悔することもあった。そんな中で、簡単な単語や会話表現を覚え、実際にその言葉を使うことができたときには、喜びを感じた。帰国前日には、初めて自分からお店の人に話しかけ、お持ち帰りはできるか尋ねることができた。結局、伝わりはしなかったが、この経験を通して話しかけてみることにするハードルが下がり、私にとって大きな成長となった。2週間、日本語が通じない環境で過ごしたことで、語学学習の必要性だけでなく、その楽しさも実感することができた。今後も中国語の学習を続け、今回できた中国人の友人と中国語でコミュニケーションを取れるくらいにまで成長していきたい。

## ② 海外での経験

中国で驚いたことの一つは、日本のサブカルチャーが非常に浸透していることであった。浙江大学の学生と親しくなり、カラオケに連れていってもらったのだが、日本のカラオケと遜色ないほど多くの日本の曲が配信されており、人気アーティストのトップは初音ミクであった。街を歩くと、ワンフロア全てがサブカルチャーのグッズで埋め尽くされた商業施設があり、ロリータファッションやコスプレをしている人々が多く見受けられた。日本以上にサブカルチャーが浸透しているのではないかと思うほどであった。また、さまざまな国のクラスメートと話していると、日本の話題になると必ずアニメやゲームが話題に上り、中国以外の国々でも日本のサブカルチャーが広く浸透していることが分かった。日本のサブカルチャーは、海外との大きな架け橋となっていることを実感した。

## ③ プログラム内容

プログラムは、主に午前3時間の語学学習、午後にツアーまたは自由時間という内容であった。語学学習では、レベル1のクラスでピンインや簡単な会話表現を学んだ。ツアーは観光的な要素が強く、どこに行くのかは前日に知らされることもあり、再度訪れることになった場所もあった。

## ④ 進路への影響について

日本で就職したいという思いは変わっていないが、日本の企業に就職するからこそ外国語はそれほど必要ないという考えには変化があった。相手と同じ言語を話せることで、コミュニケーションのハードルは大きく下がる。たとえ日本の企業に就職したとしても、語学力はビジネスチャンスを広げるための大きな武器になると考えるようになった。